

地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業

令和3年度予算額(案) 338百万円
(前年度予算額 338百万円)



学校、通学路の安全確保に向け、昨今の児童生徒の尊い命を奪う交通事故・事件の発生も踏まえ、スクールガード・リーダー増員による見守りの充実や、スクールガード等のボランティアの養成・資質向上を促進することにより、警察や保護者、PTA等との連携の下で見守り体制の一層の強化を図る。

■実施主体:都道府県及び市町村 ■補助率:国庫補助率1/3、都道府県・市町村各1/3 ※市町村直接実施の場合2/3負担

スクールガード・リーダーの育成支援

- スクールガード・リーダーの資質を備えた人材（警察官OB・教職員OB・防犯協会役員等）に対する育成講習会の実施

スクールガード・リーダーに対する活動支援

- スクールガード・リーダーによる指導、見守り活動に対する謝金、各学校を定期的に巡回するための旅費等の補助
- 学校等の巡回活動等を円滑にするためにスクールガード・リーダーの連絡会等の開催を支援、装備品の充実

スクールガード・リーダー育成講習会、スクールガード養成講習会の開催に係る経費を補助し、**見守りの人材確保と質の向上**



スクールガード（ボランティア）の養成・資質向上

- 通学路で子供たちを見守るスクールガードの防犯に対する知識、非常時の対応策等を身に付けさせるための養成講習会を実施
- 活動の参考となる資料を配布することによる見守りの質の向上

スクールガード増員による見守りの強化及び活動に対する支援

- 「登下校防犯プラン」等に基づく、登下校時のパトロールや地域の連携の場構築など防犯活動への支援
- 子供の見守り活動に係る帽子や腕章などの消耗品費、ボランティア保険料の補助

スクールガード・リーダーがスクールガードに対して、**見守り活動・警備上のポイントや不審者対応等について指導・助言**

地域ぐるみで子供の安全を守る体制構築

スクールガード・リーダー、スクールガードについて

【スクールガード・リーダーとは】

各自治体から委嘱された防犯の知識を有する者（警察官OBや教職員OB、見守り活動の経験が豊富な方等）で、防犯知識を活かした学校への巡回活動の指導を実施 ※（補助対象）謝金、旅費、保険料、防犯装備品など

【スクールガードとは】

地域住民や生徒の保護者等のボランティアで、スクールガード・リーダーの指導を受けながら、通学路などの見守り活動を実施 ※（補助対象）帽子や腕章、停止旗、ボランティア保険料など

活動による成果等

● 地域ボランティアの拡大

学校内外において、地域のボランティア等による巡回・警備が行われている学校の割合について、平成16年度（本事業実施前）は49.3%のところ、平成17年度（本事業開始）は63.1%と大幅に増加、それ以降本事業による推進により、平成30年度においても、64.0%※を維持している。

※学校安全の推進に関する計画に係る取組状況調査（平成30年度実績）

● 犯罪発生状況

子供（13歳未満）に対する被害件数の推移をみると、本事業実施前の平成15年から平成16年にかけては-1,333件、本事業実施後の平成17年にかけては前年比-2,595件と約2倍の減少を見せている。

16年から17年にかけては、ボランティアの巡回・警備も大幅に増加した年である背景を考慮すると、被害減少の一翼を担っていることも十分考えられる。



出典：警察庁 警察白書

スクールガード・リーダーの役割

- ・各学校を定期的に巡回し、学校に対する警備のポイントや改善すべき点等の指導と評価を行う。
- ・スクールガードに対し養成講習会や巡回中に警備上のポイントや不審者対応等についての具体的な指導を行う。
- ・教職員OB等を対象にSGL育成講習会を実施し、人材確保を図る。
- ・意見交換する場を設け、家庭・地域との連携の場を構築する。
- ・パトロール、防犯訓練、通学安全マップ作成などの企画、指導を行い防犯意識の醸成を図る。

【スクールガード・リーダーの1日の活動（一例）】



地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業の活動事例

徳島県【スクールガード・リーダーの取組】

【活動内容】

徳島県では、総数約14,000人の学校安全ボランティア（スクールガード）を全ての小学校区に配置し、登下校時における見守り活動を実施している。スクールガード・リーダーは、見守り活動への助言・指導を行ったり、スクールガードの養成講習会を開いたりするなど、通学路の安全体制確立のために重要な役割を果たしている。



【好事例：藍住町】

児童下校時の不審者被害を防止するため、スクールガード・リーダー4名と見守り巡視員9名が、原動機付自転車で通学路のパトロールを実施している。活動日は毎週月曜日から金曜日で、1回のパトロールにつき4人で活動している。巡視活動は広く児童・学校・地域に認知されており、パトロールと声かけで、児童の安全な下校に貢献した。

山梨県身延町【スクールガード・リーダーの取組】

【活動内容】

通年の活動 ①通学路の巡回②安全点検③通学班への同行見守り④重点場所への定点見守り⑤通学路の環境浄化安全面のほかに、環境面に配慮し、通学路を良好な状態へ整備⑥関係者との情報共有・指導

様々な活動 ①交通安全教室で講師として、交通ルールや交通安全についての体験学習②防犯教室に出席（不審者からの声掛け、連れ去り対応訓練）③地域ボランティアグループとの連携（総会・対面式に出席し、報告や意見交換）



ボランティアグループ「下山小学校子ども見守り隊」

【目的】下山小学校地域の児童生徒の安全確保を図り、健全育成に資する

【活動内容】

- ・登下校時、通学路等で児童生徒を見守り、ふれあい、声掛けをする
- ・通学路等の安全点検に努め、危険箇所をなくすために提言する（平成28年度文部科学大臣表彰「学校安全ボランティア活動奨励賞」受賞）

鳥取県【スクールガード・リーダーの取組】

【活動内容】

- 登下校時の見守り活動（伯耆町）
児童生徒の登下校時に見守り活動を行うとともに、学校を定期的に巡回し、児童生徒に安全指導を行っている。
- 不審者侵入に備えた防犯訓練活動（大山町）
学校等が実施する児童生徒、教職員を対象とした不審者侵入防犯訓練に参加し、児童生徒、教職員に指導助言を行っている。

【成果】

- 見守り活動について
活動を積み重ねることで、防犯面でも抑止力が働き、児童生徒が安全に過ごすことができている。
- 防犯訓練活動について
専門家としての知識と経験を生かした的確な指導と自らが不審者役となり防犯用具を使用した制圧訓練を行うことで、職員が有事の際に躊躇無く行動できるようになっている。



スクールガード・リーダーによる見守り活動

神奈川県川崎市【スクールガード・リーダーの取組】

【活動内容】

- ・定期的な巡回指導
- ・学校内の防犯対策に関わる指導・助言
- ・スクールガードの指導育成
- ・連絡協議会への参加



【成果・好事例】

本市のスクールガード・リーダーは20名配置しており、すべて警察官OBによって構成されているため練度も高く、交通危険箇所の交通整理、学区を巡回しての不審者等への対策、安全体制の構築のための学校への指導・助言等の様々なことを行えるため学校からも感謝の声が上がっている。

地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業の活動事例

鹿児島県【スクールガード・リーダーの取組】

【活動内容】

- 登下校時間の児童生徒の見守り活動。
- 各学校のスクールガードへのアドバイス。
- 危険箇所や児童生徒の様子について学校への助言。
- 交通安全や生活安全に係る「地域連携の場」の会議への出席。
- 各学校で行われる防犯教室への参加・協力。
- 学級活動や保健の授業へのアドバイザーとしての参画



児童とスクールガード・リーダーの対面式の様子

朝の見守り活動の様子

【成果・好事例】

- 子どもたちの見守り活動はもとより、自分たちの地域は自分たちで守るという気風を作る核となっている。
- 子どもたちが笑顔で安心して登校できる環境づくりに大いに貢献している。
- 学校の防犯教室への参加や情報提供などを通して、地域と学校をつなぐ大切な役割を担っている。

広島市【地域学校安全指導員（SGL）の取組】

【活動内容】

- ① 学校安全体制、学校施設の現状把握
- ② 学校安全上の問題点の分析と対応策の指導
- ③ 教職員との協議・研修
- ④ 学校安全ガードボランティア(スクールガード)の研修
- ⑤ 地域の見守り活動者への支援 ほか



中学校教員に対する不審者対応訓練の様子（市内全ての中学校から1名参加）

【成果・好事例】

不審者が頻繁に目撃されたり、児童生徒等の安全を脅かすような事件が発生した場合は予定を変更し、その地域にスクールガード・リーダーを緊急派遣し、見守りの強化などの対応を図り、事件の未然防止や、児童生徒等・保護者の不安解消に努めている。「不審者対応の手引き」を作成した。

札幌市【スクールガード・リーダーの取組】

中の島小学校【主な取組】

- ・ 定期的な訪問や、世の中を震撼させる事件の後に訪問をし、啓発活動を行う。（来校時は青色灯を回して駐車）
- ・ 日常から児童に声をかけ、顔と名前を覚えてもらい、事件・事故から身を守る手立てを児童に伝えている。
- ・ 全校朝会で全校児童に紹介し、話をしていただき、活発に活動しやすくする。

【成果】

- ・ 児童、保護者、地域住民に知っていただき、安心して登下校し、過ごすことができている。
- ・ 青色灯で駐車し、声かけを行うことが事件、事故の抑止力につながっている。



上白石小学校【主な取組】

- ・ 月末の児童の下校時刻合わせた通学路の見回りに加え、他県で起きた重大事件の後や、荒天が予想される前なども臨機応変に見守りに取り組んでいる。
- ・ 全校朝会やPTA行事などにも参加することで、児童や保護者から認知されるように努力している。
- ・ 通行量の多い道路での見守りや声掛けにも力をいれて活動を行っている。

【成果】

- ・ 通行量の多い道路から「抜け道」としてスクールゾーンに侵入してくる車両に対して、注意力が増してきている。
- ・ 児童に「自分の安全を守ってくれる人」という意識がはぐくまれてきており、通学時の安心感が高まっている。